



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	御殿場保全・サービスセンター社屋新築実施設計	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.6	/5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.6	/5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上
					がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.1	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①日除けルーバーの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②ライトシェルブ(RC造底)の採用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地率10%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦ウレタン吹付断熱材による高断熱化。 ⑧自然通風、日除けルーバーによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> 特になし ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	② 外皮性能 ③ 昼光利用設備 ④ 昼光制御 ⑤ 躯体材料の耐用年数 ⑥ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑦ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑧ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑨ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑩ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑪ 生物環境の保全と創出 ⑫ 敷地内温熱環境の向上 ⑬ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑭ 自然エネルギー利用 ⑮ 設備システムの高効率化 ⑯ モニタリング ⑰ 運用管理体制 ⑱ 節水 ⑲ 雨水利用システム導入の有無 ⑳ 雑排水等利用システム導入の有無 ㉑ 材料使用量の削減 ㉒ 既存建築躯体等の継続使用 ㉓ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉔ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉕ 持続可能な森林から産出された木材 ㉖ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉗ 有害物質を含まない材料の使用 ㉘ 消火剤 ㉙ 断熱材 ㉚ 冷媒 ㉛ 地球温暖化への配慮 ㉜ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.6
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯重要度係数Ⅱ類(基準法レベルの1.25倍)にて計画。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑰ 耐震性 ⑱ 免震・制振性能 ⑲ 空調・換気設備 ⑳ 給排水・衛生設備 ㉑ 電気設備 ㉒ 機械・配管支持方法 ㉓ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑街並みに配慮し、建物の外観計画に配慮した。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑳ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.4	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地率10%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥ LR-3 2 2.2 ⑮	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ・景観への配慮 ⑦ 敷地内温熱環境の向上 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	御殿場保全サービスセンター	階数	地上4F
建設地	静岡県御殿場市	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	400人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2019年10月31日
敷地面積	19,648 m ²	作成者	松田輝明
建築面積	1,912 m ²	確認日	2019年10月31日
延床面積	6,597 m ²	確認者	松田輝明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

3 設計上の配慮事項		
総合 東名高速道路の安全性向上と機能強化に寄与する、労働環境・周辺環境に配慮した、御殿場保全サービスセンターとします。CASBEE静岡2016年版による評価結果。		その他 特になし
Q1 室内環境 執務室は天井高さ2.7mを確保し、天井裏・床下のO.Aフロアスパンなどの設備スペースも将来を見据え余裕のある寸法を確保した。	Q2 サービス性能 配管配線類については、躯体打ち込み配管を避け、すべて点検可能な地下ピットなどに設置している。トイレ廻りについては衛生設備の配管が通常下階天井に配管され、改修時に下階への影響が出ることが多い。しかし、	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内は高速道路からの動線、一般県道からの動線が2つ存在し、計画建物によりそれぞれが独立したアプローチとなる。又、既存の植栽に加え、新たに植栽を整備することで、敷地内の環境向上へ配慮した。
LR1 エネルギー 夏場の建具から建物内部へ侵入する熱量を軽減するため、外壁にルーバー・庇を設けた。	LR2 資源・マテリアル 色彩については赤系アースカラーを基調とし、原色を用いず重厚な趣を強調した色彩計画とした。又形状・規模については整形を基本に計画し、外観は水平・垂直ラインを強調したファサードとし、周囲の環境、富士山の眺望にも影響の少ない形状とした計画としている。	LR3 敷地外環境 東名高速道路本線はもとより、御殿場市が指定する富士山眺望遺産に指定されている以下の4箇所 ○御殿場ブルミアムアウトレットの「夢の大橋」 ○富士仏舎利塔平和公園 ○富士松天望台 ○乙女峠 乙女の鐘からの眺望を阻害しないボリューム・色彩計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される